教育コラム「愛のかけはし」：２１３号

令和元年　７月
江差町教育委員会
学校教育課

『 中学校勤務 』

３８年間の教職生活で、一度だけ中学校に勤務（２校目に当たります）したことがあります。１校目は小学校（７年勤務）でしたし、私は小学校勤務を基本的に希望していましたので、「次は、中学校です」と聞き、思わず「小学校ではないのですね？」と聞き返した記憶があります。

その中学校は、都市部からはかなり離れており、職員体制は新卒か他管からの転入者で構成されていました。早い話、その管内の都市部や中央部の教員が積極的に異動希望を出すようなところではないということです

赴任前に、挨拶等で伺った際、校長室で教務主任の先生から（普通は、管理職が伝えると思うのですが、教頭先生も異動になるので・・。だったら校長先生では・・？）４月からの校内体制に係る話を聞きました。「先生には、２年生の担任。２年生全部（４学級）と１年生(２学級)の理科。分掌は生徒指導部で、生徒会副顧問をお願いします」と告げられ、かなりのショックを受けました。
いくら教職８年目とはいえ、中学校勤務が初めての者に、「まさか、２年の学級担任を任せるとは！？」「せいぜい、１年生の担任か、あわよくば副担かな」と予想していましたので、心の中ではかなり落胆しました。「ところで、先生は何かスポーツはされますか？」と問われたので、「バレーボールは、中高とやっていました」「そうですか。バレー部はもう顧問が決まっているんですよね。他に何かできますか？」「卓球は、職員体育でやっていましたが」「先生、いいこと言ってくれましたね。ちょうど、卓球部の顧問が空白だったのです。それでは、部活は卓球部をお願いします」こんな感じで私の４月からの役割が決まりました。

赴任してからわかったことは、この中学校は昨年度までとても荒れていたこと。幸い、現中３は比較的安定しており、素直でやる気のある生徒が多いとのこと。私が担当する２年生は、かなり生徒指導上大変だということ。とりわけ、男子の中に特別な人間関係を持ったグループ（平たく言うと、ツッパリグループ）が存在し、そのグループの影響力は大きく、学級・学年経営を進める上で苦慮することが予想される等々。

案の定、私は、早々に彼らの洗礼を受けました。
授業妨害です。勝手な私語や、異和感のある反応。注意すると、「何で俺だけ？他の人もしてるでしょ」と切り返してくる。「やりづらい」と心から思いました。さすがに、自分が担任する学級ではなかったのですが、授業の最初から数名がいない学級もありました。「〇〇いないけど、どうした？」と生徒に訊いても反応なし。しばらくすると「先生、たぶんトイレにいると思います」と、心ある女子生徒から冷めた反応が返ってきました。「先生、試されてるんだよ（イヤ。なめられてんだよ）」とその子の目が訴えていました。
そのまま放置するわけにいかないので、トイレに行くと（結果、その間は自習）、授業離脱した男子がいました。「授業、始まるぞ」「だって、面白くないもん」「そう言わず、

教室に戻ろう」「うっせいな」こんなやりとりをしながら何とか教室に彼らを戻す。こんな日々がしばらく続きました。「どうしたら、生徒との人間関係が作れるかな」と、悩む日々が続きました。

赴任早々から、「なぜだろう？」と、思うことがありました。
同じ学年団で、新卒２年目の国語教師（男）のことです。私より６歳ほど若い方なのですが、生徒との関係がとても良いのです。あのツッパリグループの生徒たちも彼の前では荒々しさが見られません。それどころか、ニコニコしながら会話しているのです。彼は、決して生徒に迎合はしていません。むしろ、普段は厳しいくらいの姿勢で臨んでいます。
「彼と私とで、何が違うのか？」必死に考えました。

彼には、厳しさと柔らかさ（温かさも含まれます）がありました。一線を画し、「ダメなものはダメ」を貫いていました。そして、生徒からの様々な反応に対して、それを受け止め、実に巧みに（私から見れば）話をし、生徒を納得させていました。ぶれのない指導、剛柔のバランスの良さ、そして素晴らしい会話力。おそらく、彼も、昨年１年は苦労したであろうと想像しますが、結果、彼の在りようが、生徒に認められ、「あの先生にはかなわない」でも「頼りになる」と思わせるような評価を獲得したのだと思います。
「何とか彼のようになりたい」彼は、私の手本であり目標となりました。

当面の「目指す中学校教員の姿」は見えてきましたが、苦しく辛い状況は続きました。
秋に、宿泊研修がありました。初日の夜に、私の学級のある女子が「私、帰りたい！」と訴えてきました。「どうした？」「〇〇に裏切られた。一緒にいたくない。もうやだ！」「どうやって帰るつもりだ」「汽車かバスで」「もうないぞ」「だったら、歩いて帰る」「落ち着け。もう少し、何があったのか聴かせてくれ」こんなやりとりを２時間程しました。正直なところ、彼女に対してどのように関わっていったらいいのか、皆目見当がつきませんでした。内心、狼狽していました。なかなか、彼女の気持ちが落ち着かず、「いつまでこんな状態が続くんだ」と焦りました。

私の中学校教員１年目は、かなり厳しいものがありました。救われたのは、６月に人事異動があり、校内体制が再整備されたことです。理科のベテラン教員が異動のため、私が３年生全学級の理科を担当することになりました。２年生の理科は、自分の担任する学級のみ。
３年生は、私には概ね好意的でした。ですから、授業も何とかなりました。生徒会の主顧問（それまでは、ベテランの理科教員の方でした）にもなりましたが、執行部の生徒達は、明るく素直で意欲的でしたので、とてもやりがいがありました（異動された理科のベテランの方が、私がやりやすい状況を上手く作ってくださったのだと思います）。
したがって、授業に関しては（３年生は）、生徒指導で苦労することはほとんどなくなりました。また、私が、３年生との関わりが濃くなったことが、おそらく２年生に対して多少なりとも抑止力になったのであろうとも推測しています。何となく、ちょっとですが、やりやすくなった気がしました。

とにかく、生徒との関わり方の質の向上が、喫緊の課題でしたが、自分なりのやり方が見えてくるまでに２年、「これだな！」と確かな手ごたえを掴むまでにさらに２年かかりました。